

# 九州産業考古学会報

第25号 2016年9月20日発行 発行元：九州産業考古学会

## 「ヘリテージング」のススメ！

稲田 毅（会員）



私が産業遺産に興味を持ったのは、2007年5月の西日本新聞に「日本の近代遺産・ヘリテージングの旅」という特集記事を見かけたことがきっかけでした。日本各地の近代化遺産が地図と写真で紹介されており、日本にもこんなに沢山の近代化遺産があることを初めて知りました。洋風建築や産業遺産など興味をそそる写真がいっぱいでした。昔から建築などには興味はあったものの、観て周ることなど考えてもいませんでした。しかし何か気になり、いろいろ調べてみましたが、参考になるようなガイドブックがありません。それで書店で探し出したのが砂田光紀著『九州遺産』

でした。写真も綺麗で100ヶ所近くの遺産が掲載されており、地図や写真、説明なども解りやすかったので即購入、それを見ながら休みを利用して、車や鉄道を使いながら写真を撮り、周り始めた訳です。

忘れもしない、最初に行ったのが、旧佐賀線の昇開橋と筑後川のデ・レーケ導流堤でした。干潮時には新田大橋から見る事が出来ると書いてありましたので、その時間に合わせて行きました。筑後川河口のど真ん中に、まさに龍が登って行くように見える導流堤と遠くに見える昇開橋、人々の営みに深く関係していても、決して強く主張している訳ではないのに、見る者を圧倒する姿に心惹かれました。

そんな頃、九州産業考古学会を知りどんな活動をしているのかたいへん興味があり、会員にさせて頂きました。また『福岡の近代化遺産』を刊行していることも知り、会報など拝見させて頂いて皆さんの思いの丈を知ることが出来、情報を得たり見学会などに参加させて頂いたり本当に良かったと思っています。

今度はその本を片手に市内の近代化遺産を周り始めました。最近、インターネットなどにも近代化遺産が紹介されており、Webサイトなども見ながら知識を吸収しております。

旅行が趣味で鉄道好きの私ですが、ややもすれば列車に乗って景勝地を見て周るだけだったのが、今では地図やスマホを片手に近代化遺産という歴史に触れることが出来、人々の建設への想いや時代背景、成り立ちなどを肌で体験出来る事が最高に嬉しくてたまりません。ついでにその地方の美味しいグルメも頂いて充実した旅行を楽しんでおります。

ヘリテージングは単なる遊興ではなく、さりとて学問でもない知的道楽だ——と書いてある本がありました。専門的な事柄はまだ良く解りませんが、次は何処に行こうかと考えるだけでもワクワクします。それが私のヘリテージングです。

## 【報告】

# 平成28年度総会

砂場一明（事務局長）

九州産業考古学会では、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成遺産の一つ「三重津海軍所跡」に着目し、平成28年度総会を6月11日（土）、11年ぶりに佐賀市で開催した。

会場の「アバンセ」（佐賀県立生涯学習センター）は、目の前に広がる“どんどんの森”という緑地公園と合わせて県民の集いの場になっているようだ。この一帯は大正から昭和にかけて隆盛した佐賀紡績（鈴木商店系列として発足）が、後に大和紡績佐賀工場となり、戦後の最盛期には従業員が2000人を越えたという九州有数を誇った所であったが、工場は昭和61年に約70年の歴史に幕を下ろし閉鎖された。広大な跡地は整備され、会場の近くには紡績工場時代の橋と門がモニュメントとして残されている。幻の総合商社といわれた鈴木商店ゆかりの遺産に触れる格好の機会ともなった。

## 《総会及び研究発表会》

総会には会員12名が出席し、大石道義会長の開会挨拶のあと、議事次第に沿って前年度の活動と会計報告がなされた。今年度の役員については、会則第7条により前任者がそのまま留任することで承認された。主な事業としては、会報の発行・見学会・後援などの定例行事のほか、産業考古学会全国大会（11月・兵庫県西宮市）、赤煉瓦ネットワーク全国大会（11月・愛知県半田市）や、昨年度に続き「近代化シリーズ」講演会（29年3月まで全5回・岡

山市）などが開催されるので、それに関連した活動となる。

研究発表に移ってからは一般参加者も加わり、佐賀市役所の木島慎治氏から、在来技術と西洋技術が接点を持った最初期の例といわれる三重津海軍所跡が、世界遺産に登録されるまでの7年間の経緯と登録後の維持勧告要請など、一般市民が知り得ない厳しい舞台裏や、世界遺産を中心とした今後の町づくりへの取り組み等について講演をいただいた。次いで市原猛志会員からは、昨年9月フランス・リール市で開催された国際産業遺産保存委員会の国際会議に参加しての報告が映像を交えてなされた。その後一同で見学会に移った。

最後になりましたが、この度の総会並びに見学会を実施するにあたり、佐賀市企画調整部三重津世界遺産課の木島慎治様と前田達男様には多大なる御協力を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。

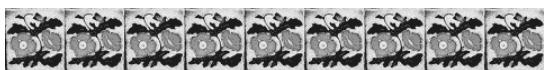
## 《会計報告》

前年度の収入は、繰越金30万2589円と会費収入等の合計37万2652円。支出は通信費・総会費・催事協力者弁償費等6万3804円。

3月31日現在の残高は30万8848円（次期繰越）、との決算報告が承認された。



写真 総会の様子



## 【報告】

### 史跡見学会(総会行事)報告

尾崎徹也(会員)

午前中の総会に引き続き、午後からはマイクロバスで史跡見学に回りました。

最初に訪れた大隈記念館は、政治家であり、早稲田大学の創設者として有名な大隈重信の生誕 125 年を記念し、昭和 41(1966)年 11 月に落成した資料館です。設計は早稲田大学名誉教授・今井兼次博士の手によるもので、昭和 42 年 10 月、建設委員会から佐賀市に寄贈され開館されました。

館内では大隈重信に関する歴史資料を展示するほか、大隈の生涯をイラストや映像資料で紹介しています。中でも珍しかったのは大隈重信が使用した義足です。この義足は明治 22 年(1889) 10 月、当時外務大臣を務めていた大隈が、外相官邸前で暴漢に襲われ、右脚を切断するという重症を負った後、使用することとなった義足のうちの 1 本です。これは当時最高級といわれたアメリカ A. A. マークス社製の義足でした

が、日本の座る生活様式にはあまり合わず、ひざ関節が破損しやすかったとの事です。

併設して大隈重信侯の旧宅が有ったのですが丁度改修工事の為見学は出来ませんでした。外観は天保以前の武家屋敷の面影を残した立派なもので、昭和 40 年に国の史跡に指定されています。



写真 1 大隈記念館

次に向かったのが、本日の見学の目玉である三重津海軍所跡です。三重津海軍所は、現在の佐賀市諸富町・川副町の川沿いの一帯にあります。このあたりは、幕末当時「三重」という地域区分であり、その港であるというところから三重の津(津は港の意味)、すなわち三重津と呼ばれ、その規模は今の早津江川の西側の河川敷約 600m にわたって広がっていたとの事です。

三重津海軍所跡は、日本が西洋の船舶技術の導入を行い、自力による近代化を目指した過程を知るうえでの貴重な遺跡として評価されています。特徴は、ここで使用されていたドックにあります。ドック(船渠)とは、船をつくったり修理したりする施設のことです。通常、ドック内の水は大型のポンプで汲み出して排水されますが、当時はそのような機械がなかったため、三重津海



軍所のドックは、日本一とも言われる有明海の潮の干満差を利用して、満潮時に船をドック内に入れ、潮が引くことで自然に排水されるという仕組みになっていたそうです。三重津海軍所跡のドックは、洋式船の修理用ドックとしては現存する国内最古のものだそうです。

もう一つの特徴として当時のドックは主に石や煉瓦を材料につくられています。三重津海軍所のドックは「木」や「土」、和船に使う「船釘」などを用いて、日本の伝統技術と併用してつくられました。先人の知恵と工夫が良く分かる近代化遺産です。

この三重津海軍所跡史跡見学の見どころが、VR スコープによる見学です。三重津海軍所跡のドックの護岸遺構は木製のため、地上で空気にさらされていると乾燥で風化してしまいます。風化を防ぎ保護するために、遺構は地中に埋め戻されており、実物を見ることができません。



写真2 VR スコープによる見学の様子

そのため、当時の三重津海軍所の様子をイメージできるよう、CG 映像を VR (バーチャルリアリティ) 機器等で体験する「三重津タイムクルーズ」が開催されています。手には地図、耳にはイヤホン、首に VR ス

コープをかけ、音声ガイダンスを聞きながら、三重津海軍所跡の見どころポイントを廻ります。現場に立って VR スコープをのぞくと、約 160 年前の三重津海軍所をイメージしたパノラマ画像を見る事が出来ます。まさに現代の史跡見学の形態を味わう事が出来ました。

次に向かったのが筑後川昇開橋です。筑後川昇開橋は、かつての日本国有鉄道佐賀線に存在した橋で、筑後川をまたいで福岡県大川市と佐賀県佐賀市諸富町を結んでいた鉄道用可動式橋梁です。佐賀線の廃線後も保存され、現在は歩道橋として活用されています。

この昇開橋は橋脚と橋脚の間が約 26m で、そこに架けられた約 24m の可動橋が約 23m の高さまで上るようになっています。平成 15 年 国指定重要文化財、平成 19 年機械遺産に認定されています。当日はどうしても上がるのを見たくて、上がる時間まで待って見学しました。

最後に立花家史料館・旧立花家住宅に立ち寄りましたが殆ど時間が無くトイレ休憩で終わりました。

今回の見学会は、見学場所を絞った非常に内容の濃い見学会で、参加者も満足の様子でした。



写真3 記念写真 (三重津海軍所跡)

## 【報告】

### 筑豊鉱山学校・筑豊工業高校所蔵資料紹介

松田寛（会員）

#### 1. はじめに

筑豊鉱山学校とその後身の福岡県立筑豊工業高校（直方市頓野）には、かつて教材等として蓄積された石炭産業に関する資料（文書・書籍・写真・映像・機械器具・鉱物標本等）約4000点が所蔵されていた。

2005年の同校閉校に伴う散逸を防ぐため、資料は福岡県教育庁文化財保護課を経て、現在は福岡県立の九州歴史資料館（小郡市）に移管され、「筑豊工業高校所蔵資料」として保管されている。

#### 2. 筑豊鉱山学校・筑豊工業高校の歴史

石炭産業の事業拡大に伴い炭鉱技術者、特に現場技術員クラスの中堅技術員の不足が経営近代化の制約となってきた。そこで、1885（明治18）年に発足した筑豊石炭鉱業組合は、1919（大正8）年に私立の筑豊鉱山学校を開校した。その後経営母体も変化、戦後の1950年には福岡県に移管され、福岡県立筑豊鉱山高等学校、1961年には福岡県立筑豊工業高等学校と改称した。

21世紀に入り、少子化に伴って県立高校全体の入学者が減少した結果、2005（平成17）年に筑豊地区の県立高校の統廃合が行われ、筑豊工業高校は、鞍手農業高等学校・鞍手商業高等学校・西鞍手高等学校と共に福岡県立鞍手竜徳高校として統合・移転され、同校の歴史は幕を下ろした。

#### 3. 「筑豊工業高校資料」の概要

同資料は、大きく分けて文書・書籍・写真・映像資料等約2000点、鉱物標本が2004点存在する。以下箇条書きにて列記する。

##### （1）文書・書籍

①経営母体に関する文書（筑豊石炭鉱業組合月報・調査資料・会議録など）

②学校運営に関する文書（学校要覧・教科内容・学校経営関連文書・教科書・補助教材など）

③同窓会・校友会に関する文書

④石炭・炭鉱に関する書籍（日本鉱物誌・日本炭礦誌などの専門書）

##### （2）写真・映像

①筑豊石炭鉱業組合が明治・大正期の筑豊地区の様子を撮影した写真123点（パネル）

資料の詳細に関しては、九州大学附属図書館付設資料館産業資料部門（旧石炭研究資料センター・以下、旧石炭研）発行「エネルギー史研究」2003年3月号に青木琢美氏が調査報告を寄稿している。

②教材として使用されたスライド写真

本資料に関しても、旧石炭研「エネルギー史研究」2012年3月号に玉井昭次氏が調査報告を寄稿している。

③昭和天皇来校時（1949年）の記録写真

④映像フィルム

昭和初期の授業・実習・寮生活の風景、筑豊石炭鉱業組合創立50周年記念式典（1935年）等

##### （3）機械器具・鉱物標本

①測量機器などの実習用器具

②地学標本資料

内訳については、鉱石（応用鉱物）標本282点・鉱物標本892点・岩石標本454点・化石標本156点・筑豊地方の岩石標本220点、の計2004点である。

#### 4. 筑豊高校資料室における展示・公開

2008（平成20）年に、筑豊工業高校跡地に移転してきた福岡県立筑豊高等学校の好意によって、新校舎の一角に旧筑豊工業高校が所蔵していた資料の一部を展示する資料室が設置、同年5月から公開された。

資料室の運営管理組織として、筑豊工業高校の同窓会「地光会」会員を中心に「旧筑豊工業（鉱山）高等学校所蔵文化財を伝える会」が設立、2011年より年1回のペースで「資料室だより」として活動記録や所蔵資料などを紹介する冊子を発行している。

##### ・筑豊高等学校資料室ご利用案内

開館日：毎週日曜日 13時～16時

見学希望の方は下記高校事務室まで事前連絡願います。

所在地・連絡先：筑豊高等学校資料室 1階  
〒822-0002 福岡県直方市大字頓野 4019-2  
TEL:0949-26-0324 FAX:0949-26-0847



写真 筑豊高等学校資料室塊炭（漆生炭鉱の燧石）

#### 【お知らせ】

九州産業考古学会見学会 in 大分(大神回天基地、宇佐海軍航空隊)

2009年の見学会で大分県日出町の回天基地跡を訪れました。まだ未整備で有った為此の膨大な歴史遺産は改めて見学に来ようと誓って7年がたちました。

今回は現地の詳しい方にガイドをお願いして現地を見学致します。又、帰りは今年3月に第2次宇佐海軍航空隊跡保存整備計画が発表された宇佐市を訪れます。

数多く残る宇佐海軍航空隊の戦争遺構は宇佐の歴史を語るうえでも欠くことのできないものです。ここでの目玉は一昨々年に開館した宇佐市平和資料館で映画「永遠の0」で使われた精密に再現されたゼロ戦です。沢山の参加をお待ちしております。

日時：2016年12月4日（日）

集合場所：小倉駅北口集合 7:50 出発 8:00

参加費：4,500円

主な見学地：回天大神訓練基地記念公園、宇佐海軍航空隊跡、宇佐稲童戦争遺産（掩体壕など）

申込締切：11月20日

申込先：kias メール(kias@freeml.com)まで



写真 2009年見学会(日出町回天基地跡)



## 【お知らせ】

### しめの文化財ウォーク

国指定文化財の旧志免鋳業所竪坑櫓を中心とした、志免町の文化財巡りを開催いたします。

日時：2016年11月5日（土曜日）10時から（9時40分集合） 雨天決行

集合場所：糟屋郡志免町 シーメイト（竪坑櫓前）集合 解散時間：12時10分予定  
コース：旧志免鋳業所竪坑櫓→志免鋳業所跡竪坑及び第八坑関連地区→

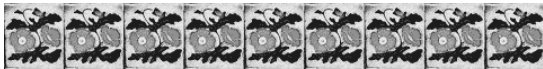
ボタ山→産業遺産収蔵庫→大正町商店街→鉄道記念公園→岩崎神社（現地で解散しますが、シーメイトには戻ります）

定員：30名（準備都合上11月1日締切）  
※タオル・水筒・帽子などは各自持参してください

問合せ先：志免町教育委員会社会教育課

Tel092-935-7100

syakaik@town.shime.lg.jp



## 【書籍紹介】

『福岡地方史研究』第53号

木元富夫（顧問）

産業革命期以降の近代化産業遺産を考古学的手法によって調査・研究し、場合によっては遺産の保存や維持・活用も課題とする取り組みが産業考古学である。考古学と文献史学との連携の重要性が認識され、一部が「歴史考古学」として研究されているこんにち、沉んや近代の産業考古学にとって歴史研究の尊重は必要不可欠である。我々産業考古学徒は常に歴史研究の動向に注意を払い、史料的情報を得て産業遺産への知見を確実なものとするべきである。その

観点から今回は福岡地方史研究会が刊行している『福岡地方史研究』を紹介したい。

毎年夏辺りに発行され、最近号は第53号であるが、「東アジアの中の福岡・博多」が特集されている。記事をいくつか挙げると、「大谷光瑞の興亜と鎮西別院」（鷺山智英）によると、北九州市門司区の浄土真宗鎮西別院には、興亜生活運動を九州で展開した鏡如上人（光瑞）像があるというのに、評者は興味を引かれた。戦前大陸への玄関口であった門司の近代化と関わっている。「海軍炭鋳からの石炭輸送鉄道」（渡部邦昭）は、我々には非常に親しいテーマであるが、本稿では多くの文献や統計資料によって博多湾鉄道汽船の歴史が紹介されている。この史料研究に学んで、改めて線路跡を歩いてみたいと思った。「福岡の鶏肉・鶏卵の食文化誌」（竹川克幸）も面白い。鶏卵は筑豊発祥のひよ子や千鳥饅頭にもつながる。

バックナンバーになるが、第47号（2009年）はずばり「福岡・博多の近代化をめぐる」の特集号で、これは見逃すことが出来ない。鉄道、港湾、空港、都市化などが取り上げられ、小会の徳永博文会員も「香椎線に残存する博多湾鉄道時代の橋梁」なる論考を寄せておられる。

かくて本誌は、九州の産業考古学研究にたずさわる者に裨益するところ多大のものがあるが、ローカルな会報、それも年刊ということでその存在を知らない人も多いのではないかと。会員でなくとも入手が可能な、堂々たる研究誌であり、その存在を言い広めたくここに紹介する次第である。本誌の目次は版元のサイトで見ることが出来るし、最近のバックナンバーも含めて現物は福岡市内の大型書店の郷土史コーナーで手に取ることが出来る。

（花乱社、2015年9月、本体1500円）

◇◇会報原稿募集（会員外でも応募できます！）◇◇

『九州産業考古学会報』への積極的な投稿をお願いします。募集原稿は【報告】（700字～1400字程度）や【研究発表】（1400～2800字程度）、【お知らせ】（400字以内）など。いずれも図表を入れる場合文字数要調整。また紙面の都合上、文面レイアウトに関して編集側で変更する場合があります。投稿に関する詳しい情報は学会ウェブサイト及び事務局まで。

■■会報第25号・目次■■

【巻頭言】

「ヘリテージング」のススメ！…稲田 毅 1

【報告】

平成28年度総会……………砂場一明 2  
 佐賀地区見学会……………尾崎徹也 3  
 筑豊鉦山学校・筑豊工業高校所蔵資料紹介  
 ………………松田 寛 5

【お知らせ】

九州産業考古学会見学会 in 大分…… 6  
 しめの文化財ウォーク…………… 7

【書籍紹介】

『福岡地方史研究』第53号  
 ………………木元富夫 7

【お知らせ】

今後の予定 ……………… 8  
 会費納入・ご寄付のお願い…………… 8

今後の予定		会費納入・ご寄付のお願い
9月 3日	「近代化遺産」シリーズ連続講演会（岡山市）	当会は年会費を個人会員2000円、団体会員は5000円それぞれ徴収しています。当会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。  会費納入・寄付先口座（一覧） ・ゆうちょ銀行 17430-88882241 キュウシュウサンギョウコウコガツカイ ・福岡銀行大牟田支店（店番691） 普通 1914369 九州産業考古学会
10月		
11月 4～6日	産業考古学会全国大会（大手前大学夙川キャンパス）	
12月 4日	九州産業考古学会見学会 in 大分(日出町・宇佐市)	
	会報26号発行	

<編集後記>

長崎の教会群とキリスト教関連遺産の世界遺産登録が延期となり、九州における近代に対しての関心の高まりはしばらく続くことになった。現状まちおこし活動と言うよりも外部からの観光客誘致が目立っているものの、関心層の拡がりには、日々体感しているところでもある。そのような流れの中で、八幡図書館が解体されるなど、産業遺産保存にかかる費用と文化的関心のせめぎ合いは、景気低迷の中、難しい局面が続いており、日々悩ましい限りである。（市原）

九州産業考古学会事務局 〒811-3430 福岡県宗像市平井二丁目12-1 砂場一明 気付  
 TEL&FAX : 0940-36-5501 E-mail : k-sunaba@jcom.home.ne.jp URL : <http://kias.kilo.jp/index.php>  
 学会ML希望者は、上記アドレスもしくはWeb担当者 (iota\_titanus@yahoo.co.jp) まで連絡願います。